

仙北市議会 だより

主な内容

仙北市議会 平成23年12月定例会…	2 ~ 3
平成22年度 一般会計決算審査 …	4
一般質問……………	5 ~11
常任委員会……………	12~14
税金の不正処理・所得税還付等問題、 市立角館総合病院建設に関する調査特別委員会設置 ……………	15
傍聴席・人事案件 ……………	16

12月定例会

第55回秋田県中学校スキー大会
〔アルペン競技の部〕男子回転 優勝
須田 忠厚 選手(生保内中学校)

〔写真提供：井上 剣太郎 (南井上写真工房)〕



誇りと志を持つ
議会を目指して

仙北市議会議長 佐藤峯夫

「世の中で最も憂うべきは、国民が政治に
信任を失えるに勝るべきことはない」

宰相 石橋湛山の言葉

正に大震災は、日本は一流の市民を持ち
ながら、三流の政治しか行なえない国であ
ることを教えた。

本市議会も「税金不正処理」を巡り、揺
れに揺れた一年だったと言えよう。

「議会は何をしているんだ」との市民の
怒りや失望は、議会に対する不信と変わり
つつある。

どう対処し住民の議会への信頼を回復す
るべきか、苦悩の日々。

議長として、重い責任と事件の深さに耐
えた昨年でありました。

反面、問題が大きければ大きいほど議会
に寄せる期待も大きいことに勇気づけられ
ました。

そして、私ども議員にも、厳しく反省を
迫られていることも知った。

物事を純粹に見つめ、原点に立ち返って
考える議会が求められているのだ。

選挙は、必ずしも有能な人材を選ぶとは
限らないが、せめて「正義感」と「信用」
を胸に刻み込んで進捗年にすることを全市
民にお誓いしたい。(二月十日記)

第7回 仙北市議会 12月定例会

(平成23年11月30日～12月21日)

平成23年度 仙北市一般会計補正予算 5,560万円を全会一致で可決する。

議員提出議案

議員定数を3人減の19人とする条例案を可決 (賛成多数)

議員報酬を5%引き下げる条例案を可決 (全会一致)

議員提出議案 議員定数「22人」を「19人」に改める

高橋議員の提案理由の説明

(次期改選時より)

地域経済情勢の悪化少子高齢化に伴う人口減少(5年後、約2万7千人)、仙北市財政の逼迫等により一層の効率化が求められている。

議会改革の中で特に議会経費の削減は議員定数、報酬の削減である。

政治は幅広い分野、年齢、地域の層に門戸開くことが必要である。

一概に定数を減らすことは門戸を狭めることになり、一方で報酬を限りなく削減することは時間とお金に余裕のある人が多くなる。

次代を担う若者は時間的、金銭的にも余裕があるといえず政治に挑戦し難い状態を作ることと考える。

地方分権時代において、これまで以上に議会には専門性が求められることから報酬を限りなく削減していくことは逆に限

られた人しか挑戦出来なくなる。誰もが挑戦できる専門性を備えた議会へと大幅に舵取りをすべきである。

少数精鋭であれ中身や質が大切であり、住民から信頼される、頼れる議会へと議員自ら改革して行く意欲のある人が出てきてもらいたいし、内容の濃い議会にすべきとの思いから議案を提出する。

議員提出議案に対し

平岡議員の反対討論

行政に対して議会は広く住民の多様な意見を細やかに吸い上げ、反映させることである。

定数が削減されると広いエリアの仙北市は市民の声が反映できなくなる。

2名減になってから2年も経っていないし、や

るべきことは2名減になった時点で検証してからも定数削減は遅くはない。

以上の理由で本案には反対する。

採決の結果、賛成18名 反対2名で可決する。

引き続き議員報酬を5%引き下げする議員提出議案は全会一致で可決する。

議案の撤回 その1

ちづくり基本条例制定について

まちづくり基本条例は仙北市と市民が協働してまちづくりを進めて行くという条例であり、進める上で職員の関わり方や職員の資質向上、意識改革を進めまちづくりにどのように立ち向うかについて明文化するものがあるが(議会から、市民を指導する立場にあるかのように書かれている一方、行政自らの変化について言及がない。市と市民は対等であるという原則が意識されておらず行政側の視点で作られている。

他市の条例は市民が政策立案過程に市民が参画できるようにするとうたわれており、むしろ市民が市政に関わりを持つという方向で書かれている。

仙北市の協働の条例ではそうした条項は一切書かれていないことを議会は指摘する。

内容を更に調査、検討を要する事項があることから市長より撤回の請求が出され、これを議会は承認する。

議案の撤回 その2

仙北市基金条例の一部を改正する条例制定について

奨学資金の貸与を希望する生徒に、仙北市では仙北市奨学資金条例、田沢湖町奨学資金貸付基金条例、それに民間団体である角館町育英会の奨学規定に基づいて貸与している。

新年度よりこれを一本化した制度により奨学資金の貸与を行う条例の改正である。

しかし、田沢湖町奨学資金貸付基金の財源とし

て昭和49年に生保内財産区より1,400万円、昭和50年に田沢財産区より1,000万円が繰り入れられている。今回の条例改正案を提出する前に生保内、田沢両財産区管理会の承諾を得るべき所を承諾を得ないまま議案提出したことにより手続において不十分であり教育長より撤回の請求が出され、これを議会で承認する。

**一般会計補正予算
歳出の主なもの**

◎クニマス里帰りプロジェクト事業費
富士河口湖町で平成24年3月にクニマスの調査研究をしている機関が現状の報告や今後の展開を協議する会議へ出席する旅費4名分 27万円

◎地域運営体活動推進費交付金
角館地域に角館まちづくり地域運営体が設立され、活動を支援する交付金 500万円

◎障害者自立支援給付費
障害者の福祉サービス利用者の増加による(角間川更正園、こうせい)

里、愛仙等)
新年度より福祉サービスの法律改正により円滑に移行するため各施設に対して特別対策費として助成するもの、その他補装具等 1,173万円

◎既存施設スプリンクラー等設備整備費
かたくりの里(西木町)へスプリンクラー設置の補助金 211万円

◎くらしの安心サポート推進事業費
各地域センターの要望により除雪機3台、草刈機2台、管理機1台、投光器4台、発電機2台等を配置する費用 901万円

◎老人福祉施設措置費負担金
寿楽荘が民営化により事務費改定の差額分と1名増による措置費 250万円

◎既存施設防火改修等整備事業費補助金
たんぼぼ(角館)に地震防火対策に必要な壁等の補強に対する補助金 650万円

◎こどものえき設置事業費
花葉館、平福美術館田沢湖図書館へ、おむつ交

換台、ベビーキープ、ベビージェア、ベビースhirt等 171万円

◎生活保護費
340世帯、475人に対して生活、住宅、医療、介護扶助費 2,635万円

◎市営住宅管理運営費
菅沢住宅の白アリ駆除、給湯器、ガスの修繕費と除雪機械貸上代 341万円

◎福島つ子と秋田つ子の冬期交流事業費
紙風せんづくりの交流(松木内小)、燈火祭での交流(白岩小)、剣道部となべっこ郷土料理の交流(生保内小) 195万円

◎一般教育振興総務費
平成24年度教科書の改正により市内中学校5校分の職員用教科書購入費 317万円

(田口(喜)記)



議決結果／議員賛否 (平成23年 第7回 仙北市議会定例会 (招集日：11/30 最終日予定：12/21))

※議案第96号は可否同数のため法律に基づき議長の裁決による
※議案第116号及び第123号の2議案は原案撤回のため議決結果なし

凡例:賛→賛成、反→反対 (議長は、法律に定める特定のケース以外では表決をしないことになっています)

議案番号	会派及び氏名等 件名	議決 年月日	議決 結果	民 政 会 議				仁 政 ク ラ ブ				翠 巒 会				新 星 会		日 本 党		会 派 員		
				伊藤 邦彦	阿部則比古	狐崎 捷琅	門脇 民夫	佐藤 直樹	黒沢 龍己	田口 寿宜	安藤 武	小林 幸悦	藤原 助一	田口 喜義	荒木田俊一	青柳宗五郎	高橋 豪	八柳良太郎	高久 昭二	平岡 裕子	熊谷 一夫	小田嶋 忠
議案第96号	平成22年度仙北市一般会計歳入歳出決算認定について	11/30	原案不認	賛	賛	賛	賛	反	反	反	反	賛	賛	賛	賛	反	反	反	反	賛	賛	反
議案第101号	平成22年度仙北市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について	11/30	原案認定	賛	賛	賛	賛	反	反	反	反	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛
議案第103号	平成22年度仙北市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	11/30	原案認定	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛	賛
議案第117号	仙北市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について	11/30	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	反	賛	賛	賛	賛
議員提出議案第16号	仙北市議会議員の定数を定める条例の一部を改正する条例制定について	12/21	原案可決	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	賛	反	反	賛	賛

一般会計等決算審査特別委員会報告 及び本会議審査報告

●議案第96号 平成22年度 度仙北市一般会計歳入歳 出決算認定について

質問 収入未済総額が前年比5千686万円の増加であるがその原因と対策は。

答弁 リーマンショックと宮城、岩手内陸地震の風評被害が持ち直して来たところから3月の東日本大震災が追い打ちをかけたという状況がある。今後の対策についてはこれまでの個別訪問や換価性の高い預貯金の差押を行い、新たな滞納を増やさないよう現年度分を先に納入頂くことを考えている。徴収嘱託員の動員、夜間窓口の開設、口座振替の促進、コンビニ収納の検討、県地方税滞納整理機構の活用、収納対策室と複合的に機能させながら収納対策を講じていく。

働システムとの照合でできなかった反省を踏まえ、22年度は実施した。

質問 秋田内陸縦貫鉄道は依然として赤字額が2億5千万円前後で推移しているが、新たな負担も覚悟しているのか。

答弁 赤字額2億円、乗者数60万人のハードルを低くする考えでの経営改善はあり得ないと思っている。仮に廃止ということが狙い（せりょう）に上がった場合を想定すると、内陸線の機能を補完する地域交通の確保が必要になる。

質問 木質バイオマス施設について負担金として、月島機械株式会社より約1,700万をいただいている。瑕疵と認められた結果、当局から負担金を要求したのではないか。

答弁 協議を重ね、信頼関係の中での対応であり、瑕疵を前提したものではない。現在大規模改修を行っているが仮に不具合が発生した場合、改修後に性能検査を実施し、当初、要求した性能が発現できている

答弁 22年度については乖離はなかった。21年度に原

離はなかった。21年度に原

平成22年度一般会計決算審査

本会議採決は可否同数 議長採決で不認定



- 理由は
- 1、木質バイオマス発電施設 ⇒ 当初の計画通りには全く稼働していない
 - 2、障害者福祉費 ⇒ 補装具費等の支給について利用者負担額に誤り (23年度に返金済み)

か、いなか見極めた上で判断したい。

反対討論 木質バイオマス事業は計画した通り成されていない。施設の不具合が瑕疵でないとするれば、今後

も正規な稼働ができな場合、十分な損害賠償が懸念を抱く。障害者福祉費の中で補装具費等支給の利用者負担に誤りがあり、23年度に利用者へ返金されてはいるが誤ったままの決算である。

◎委員会審査で賛成・反対それぞれ討論がありました。

採決の結果
賛成少数により、不認定と決定

◆本会議において採決の結果、可否同数、議長裁決の結果、不認定と決定

●議案第101号 平成22年度仙北市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について

質問 国民健康保険特別会計の広域化の進展はどうか

っているのか。

答弁 第1段階である後期高齢者制度の廃止を盛り込んだ法案では知事会が反対している事情もあり、国会に提出されていないので、先行きが不透明である。

質問 市県民税等の決算額と調定額の乖離問題等については、今も調査中であるが後でこの決算額が変わることはないのか。

答弁 不能欠損については、納付義務が5年時効により消滅するので影響はない。調定額では、例えば追加で出てくる年度がある場合は、それがわかった時点で過年度分としての追加税措置となる。

反対討論 大きな病気も流行せず医療費の抑制に繋がりが、かつて無いほどの黒字であった。市民の方々は国保税を少しでも下げてほしい強い要望がある。その負担を軽減するよ

うな決算でないので、認定については反対である。

◎委員会で採決の結果、賛成多数で認定

◆本会議では賛成多数、認定と決定

●議案103号 平成22年度仙北市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

反対討論 この制度の廃止を要望している。又、広域連合の決算残高は33億円以上あり、負担軽減となる対策をするべきであり、認定については反対である。

◎委員会で採決の結果、賛成多数で認定と決定

◆本会議において賛成多数で認定と決定

■審査の過程で出された意見や要望等、あるいは監査委員の意見や指摘事項について、これを真摯に受け止め、来年度の予算に反映されるよう要望する。

(荒木田 記)



一般質問



- 新庁舎より市民の暮らしを
- 西木総合グランドについて
- 中学校統合と市役所の位置について
- 市民温水プールについて

民政会議 伊藤 邦彦 議員

新庁舎より市民の暮らしを

質問 市財政が逼迫し、市民生活が困窮している折、土地を購入して、一体型の新庁舎を、2019年まで建築する

とするが、既存施設を最大限に活用し、市民負担を最小限に抑えることが肝要でないか伺う。

答弁 市庁舎は市民サービスを提供する場、まちづくりの拠点で、市の財政状況等を十分考慮して、将来にわたり市民に負担をかけない手法を考えた分庁舎方式は、市民の方が一箇所で色々な事ができず利便性の上から非効率である。又、職員にあっても職務についての問題意識の共有が進まず機動力と防災力の低下となっているので一体型庁舎が必要である。

中学校統合と市役所の位置について

質問 神代、西明寺、松木内の各中学校を西明寺中学校に統合すれば

角館、生保内中学校の3校とも生徒数200名を

越える学校となり、部活の充実や同級生同士での切磋琢磨もできる学校になるのではないかと、さらに、空いた神代中学校を市役所建設敷地と位置付けられないか伺う。

答弁 神代、西明寺、松木内の各中学校の生徒数の推移を見ると、減少傾向ではあるが、激減というほどではない。小規模校では、多人数の友人触れあい等の社会性の育成、部活動でのマインスマがあることは理解している。現在の各学校の状況を見ると、部活も学習活動も先生方の目が行き届いて、学力、学習状況調査等優秀な成績であり、中規模、小規模校が活躍している。

地域で行われる行事にも参加して地域と一体となった教育を展開し、地域の活性化にも寄与しており、現状の規模で学校経営していくのが、現時点ではベターな判断である。

学校が統合され、空いた神代中学校跡に一体型庁舎を整備する。この案は財政負担、神代地区が

市のほぼ中心地という地理的優位性のある利点ではあるが、合併特例債を庁舎整備の主財源とした時、学校統合後に庁舎整備となるとスケジューリング的に厳しいと慮する。

市民温水プールについて

質問 市民温水プールについて、バイオマス発電施設が順調に稼働するかどうかにかかっていると思うが、仙北市は急速に高齢化が進み、高齢者の温泉療法、又、四季を通しての学校体育、水泳愛好者の期待も大きい。

答弁 温水プールの新築するか、大震災を想定に入れて、クリオン3階にある現プールを改修するのか伺う。

温水プールの新築の費用が見込まれるので、現財政状況から厳しく考えると、3階に位置する現プールを改修となれば、耐震性の心配もあり、いずれ助成金事業によるクリオンプールの全面改修がいいか、多角

的な角度から検討中である。

西木総合グランドについて

質問 合併前、西木総合グランドは、電光掲

示板や観覧席付野球場、全天候型のテニスコート等を備えた総合グランドの計画であった。合併協議会でも合意されていたはずだ。地域住民の落胆は大きい。それがらにどう対応するのか伺う。

答弁 合併後、政策調整会議で再検討が必要と判断され、財政難の折、計画を西明寺中学校グランド建設計画と改称、教育施設と地域住民の利用に供し地域活性化の拠点となる施設として整備を進めるとして、この提言書に基

づき整備をしてきたところである。利用者の意見、いろいろな状況を踏まえて、改善を視野に検討を重ねる。

(門脇 記)



改善が待たれる西明寺中学校グランド

一般質問



○マグニチュード9規模の地震や、駒ヶ岳の噴火等が発生した場合、市の対応は
○市立角館総合病院の建設について

議員 田口 喜義 会 員 翠

災害発生！ 市の対応は

質問 今回の東日本大震災の影響により、周辺での地震発生率が10倍以上、上昇した活断層が全国で11カ所ある。

その中に田沢湖から横手市までの断層帯も含まれており、過去にも大きな被害があった事は承知していると思う。

このようにいつ大地震が起きてもおかしくない状況である。

また、駒ヶ岳についても、近年は周辺部の地温上昇や水蒸気の発生なども確認されている。

さらに、豪雨による被害も毎年発生している。

そこで、仙北市において地震・洪水・噴火が重なり合って発生した場合市民に正確な情報をどのように伝えるのか。

また、避難と誘導方法について伺う

答弁 市民への伝達方法としては、災害発生直後には防災無線による情報を提供する。角館地区には、次年度に防災無線を整備しながら全体的な



洪水被害常習地（松木内河川公園）
病院建設は安全な場所へ

周知方法を整えていきたい。合わせて、広報車等の巡回、安心・安全メール、エリアメール、衛星電話、町内会、地域運営体などの自治組織を通して複合的、複次的に組み合わせ、周知を図る。

防災マップには避難施設56、避難場所54ヶ所を指定している。

市民を速やかに誘導できるように職員の動員体制を見直し災害に備えている現状である。合わせて、職員が広報車で、支援行動を呼びかけ、更なる危険が予想される場合は、避難勧告、避難指示を呼びかけていく。

市立角館総合病院の建設について

質問 改築に当たり角館病院はどのような医療を目指すのか。

答弁 がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の4疾病と、救急、小児、周産期、災害、僻地5事業に対する診療方針である。特に、一次救急は角館病院で完結すべき使命があり、地域密着型の病院にならなければならない。

質問 角館病院の利用者を地域別に、また、仙北市の国保加入者は約3分の1であるが、社会保障利用状況をあわせて伺う。

答弁 入院は仙北市73.6%、大仙19.7%、県内3.5%、その他1%、外来は仙北市76.2%、大仙19.7%、県内3.5%、その他3%となっている。

社会保障等の分析は出ていないが、同じような状況と思われる。

質問 建設場所の決定に当たり選定委員会の

答弁 建設場所については、建設場所の決定に当たり選定委員会の

答弁 建設場所については、建設場所の決定に当たり選定委員会の

答申の他、重要視する点があれば伺いたい。

答弁 来院される患者様や御家族への配慮である。通院のための利便性や公共交通機関の有無、災害に対応可能な適地、あるいは診療所との兼ね合いなどを視野に入れている。

質問 建設場所はいつごろまで決定するのか。それに伴い今後のタイムスケジュールは。

答弁 特別委員会で協議しながら年度内には決定したい。その後順次事務手続きを進める。

質問 病院の建設費及び用地面積と基本的な病床数は幾らになるのか。

答弁 基本構想では建設費が約75.5億円で、面積は3ha程度である。

質問 角館病院建設により市の医療体系は現在と同様か、見直しはあるのか。

答弁 組合病院、田沢湖病院との連携を考えると、当然機能分担が必要不可欠であり、これま

答弁 組合病院、田沢湖病院との連携を考えると、当然機能分担が必要不可欠であり、これま

で同様の医療体系とは異なってくることも想定される。

質問 自治体病院の収支は赤字でも良いのか、改築後の経営について伺う。

答弁 自治体病院は救急、高度医療などの不採算部門を担っている。それでも、赤字でも良いという認識は全く持っていない。建設費が経営健全化に支障を及ぼさないよう努力する。

質問 病院独自で事務員や管理職の採用が出来るか。

答弁 法的には可能だが、即座に移行は出来ない。

いずれはプロパー職員としての人材育成が必要と考える。

質問 救急や夜間診療も含め民間病院との連携は進んでいるのか。

答弁 市内の開業医から一度日曜日に診療協力を頂いている。市外では仙北組合、秋田赤十字病院と常に連携を密にしている。

答弁 市内の開業医から一度日曜日に診療協力を頂いている。市外では仙北組合、秋田赤十字病院と常に連携を密にしている。

(小林 記)

一般質問



○市長の政治姿勢について

仁政クラス 田口 寿宜 議員

市長の政治姿勢について

質問 門脇市政が始動してから2年の月日が過ぎた。外交面では、様々な場面でのトップセールスをはじめ華々しい活躍を見せ評価すべき点はあるが、内政面では、いささか動きが鈍いように感じる。今こそ地に足をしっかりと着け、仙北市発展の為に踏ん張る時が来ていると考える。これまでの反省点と今後の抱負を伺う。

答弁 2年前にマニフェストを掲げ、この職を預った身として、命がけで取り組んでいるつもりであり、人生を懸けてこの職務を全うしたいと考えている。休む事なく回り続ける事が、職務への忠誠であると思っている。そのような事から、議員、市民、職員、それぞれの方々から理解を得る事が出来ないままに行動を起こす場面が多々あった。そういう場面については、最近コンセンサスの必要性を実感し、反省をしている。

この2年間で、マニフェストを推進する為の土台が形づくられ、走り出して走り続ける中で、めどがついた物、難航している物がある。残された任期の中で市民の理解を得ながら、職員とのコンセンサスのもとにパワーを結集し、最大限の努力をしつづけなければと考えている。

質問 マニフェストのもと、各種施策が展開されている。相当な覚悟を持って当たっていると、思うが、なかなか市民から評価を得られていないのが現実であると感じている。

答弁 アクションプランには着手しているが、着手しからの先が全く見えて来ない現状に、市民は不満を感じていると思われる。市長の掲げたマニフェストは、仙北市の将来を見据えた重要な指針であると考える。市発展の為にどのような意識のもとに進んで行くのか。

市民から期待される政策として運用が始まっている制度がいくつも

ありながら、市民には改善の実感を感じて頂けない状況にある。

これは、国家が抱える閉塞感であったり、仙北市市政に対する不信感であったり、自身の力量不足などであったり、様々な要素があると思う。じっくりと検証をし、地に足の着いた活動、仕事をして行きたいと考えている。

質問 6月定例会の一般質問の際に、人口減少問題をテーマに質問をした。その時の答弁の中で定住の循環という言葉

が出された。人口3万人を切った仙北市、人口減少のスパイトは衰えていない。この状況を回避するには、定住の循環の考え方は大変重要なものである。これを実現する為のアクションは起こしているのか。また、来年度予算を編成する際、施策の選択と集中が迫られている中で、今後どのようなアクションを起こして行くのか。

答弁 産業振興をはじめ、子育て環境の整備、教育、福祉、定住対策、地域公共交通の整備

等、色々な取り組みをしている中でも、本当に豊かな市民生活を実現する為に、地域の有する様々な資源を活用し、お互い助け合う地域社会の構築は必要不可欠と考える。官と民の役割や責任、その共通認識を醸成し協働するまちづくりを進めたいと考える。

質問 熱意を持って何事にも取り組もうとする点は評価するが、時として、思いと行動がちぐはぐになっているように感じる。思いだけが先行すると、逆方向に進んでしまう危険性がある。熱い思いを形にする為には、短い時間の中でも緻密な計画を立て、順を追って色々と進める必要があると考えるがどうか。

答弁 物事には、始まりがあって終わりを迎えるまではプロセスがある。そのプロセスの一つ一つであったり、一段階一段階を大切に過ごせるかどうかで、その結果が変わってくると思う。そうした気持ちを大切にしたい。

(佐藤 記)



外交、内政バランスのとれた市政運営を!

一般質問



- 市長のマニフェストの検証について
- 原子力発電と新エネルギーについて
- 医療再生と福祉の充実について
- 人工透析について
- 行財政改革について

新星会 高橋 豪 議員

市長のマニフェストの検証について

質問 市長は、この2年間の公約の中で、「これが良かった、あるいは見直しが必要だ」と思う点多々あると思うがこれまでの検証についてお尋ねしたい。

答弁 マニフェストに「明日を創る8つの約束」を創る8つの約束とそれに基づく40項目のアクションプラン」を作り仙北市政の運営に当たってきた。その点について主なものを総括してみたい。

- ① 市民要望の達成度調査が完了し、要望と現実のこの差を整理している。
- ② 所得を10%増やす総合産業研究所の開設で新農業政策が芽吹いてきた。
- ③ 医師確保対策奨学金制度の創設。角館病院の新築事業が動き出した。
- ④ 地域運営体が全地域に立ち上がった。
- ⑤ 行財政改革の一端とし市庁舎建設の凍結。市長、副



2年が経過した門脇市政マニフェストを検証

答弁 役所と組んでいることに対しては太陽光パネルの設置である。ただ、0.22%と低レベルの需要と供給のバランスである。そのほか小水力発電にも大変興味を持っている。

質問 風力発電は仙北市では安定した風力を得られるかどうか若干の不安を抱いている。

質問 当市は、市立角館病院と市立田沢湖病院の2つの公立病院を抱えている。どちらも医師不足等の要因で厳しい経営困難を強いられている。一方、本市の高齢化率は将来40%以上になるという予測である。こうした中で本市の医療分野や福祉にどのように取り組んでいくつもりか。

質問 残念ながらマニフェストにかかげた医師及び看護師数の確保にまだまだ至っていない。今後も積極的に招聘活動に取り組んでいきたい。

原子力発電と新エネルギーについて

質問 福島原発事故が起る。市長は、原子力発電について議論されている。市長は、原子力発電にどのように考えているか。

答弁 は、原子力発電はこれ以上増やすべきではないし、それに変わる代替の新エネルギーに変えていく必要があると考えている。

質問 本市は、木質バイオマスの発電施設もあるが未だ稼働せず改修工事中である。そのエネルギーは別としてそれ以外にも当市では水力、地熱、太陽光等可能性のあるものがあると思うがこの分野での2年間の具体的取り組みがあったかどうかお聞きしたい。

質問 平成20年条例制定のご承認を頂いて、現在医師4名、薬剤師1名、看護師8名の13人に対し約2,200万円の貸付を行ったが、将来仙北市の病院事業に従事してくれるものと確信している。

医療再生と福祉の充実について

質問 当市は、市立角館病院と市立田沢湖病院の2つの公立病院を抱えている。どちらも医師不足等の要因で厳しい経営困難を強いられている。一方、本市の高齢化率は将来40%以上になるという予測である。こうした中で本市の医療分野や福祉にどのように取り組んでいくつもりか。

答弁 残念ながらマニフェストにかかげた医師及び看護師数の確保にまだまだ至っていない。今後も積極的に招聘活動に取り組んでいきたい。

質問 平成20年条例制定のご承認を頂いて、現在医師4名、薬剤師1名、看護師8名の13人に対し約2,200万円の貸付を行ったが、将来仙北市の病院事業に従事してくれるものと確信している。

人工透析について

質問 本市では約60名程人工透析者がいると聞いている。透析は体力を消耗するため自治体によってはタクシー券を補助している自治体もある。仙北市の場合まだまだ欠けている面があると思うがどうか。

答弁 仙北市は優しいまち思っているが、まだまだ欠落した部分がある。今の指摘は大変参考になったので少し検討の時間を頂きたい。

地域運営体について

質問 地域運営体には問題も沢山含んでおり、もっと検証しなければと思うが市長の考えを聞きたい。

一般質問



○市立保育園・幼稚園の行方について
○市への寄贈品の扱いについて

日本共産党 平岡 裕子 議員

あり方検討委員会について

質問 幼稚園、保育園の「あり方検討委員会」の話し合いの内容と、今後の進め方について伺いたい。

答弁 「あり方検討委員会」は保育園、幼稚園が抱える諸課題と将来にわたる、あるべき姿などについて検討するために設置した。

一回目は、「あり方検討委員会」の設置要綱を委員の方々に説明し役員の選任をしたところである。

二回目は委員から検討テーマを(1)保育園の環境整備、(2)就学前の教育の充実、(3)保育園、幼稚園教諭の確保と職場環境、(4)幼児教育を推進しやすい行政体制づくりについて意見が交わされた。

質問 来年度予算に反映できる政策提案とあるが職員の待遇、時給の見直し、待機児童の解消対策が含まれるのか。

答弁 現状では待機児童の解消を優先し、施設の整備、民間の子育グ

ープによる託児サービスの提供を考えている。待遇等については既に検討に入っている。

質問 今、政府では保育を市町村の実施義務から外そうとしているが、市民が願う子育ての支援はどうなるのか。

答弁 今回の中間的な取りまとめでわかっている新システムの特徴としては、次の点が挙げられると分析している。

(1)市町村の保育実施責任を廃止する。(2)入園申し込みは、保護者と施設事業者との直接契約に変えていく。(3)時間刻みの保育サービスの提供に参入できる市場化を進める。

詳細の多くの部分、先送りされている状況にあるので、この後の動向に十分注視する必要があると思っている。

介護保険について

質問 4月から介護保険法が改正となり、保険料利用料の値上がりや、要支援者への生活援助時間の短縮されること

が予想されるが、市としての対応はどうなるのか。

答弁 現在、仙北市の65歳以上の一号被保険者数は9,888人。その中で要介護認定者数は1,905人、全体の19%である。保険料は月額4,580円であるが、介護保険制度は3年ごとに見直すことになっているので、24年度は第5期の改正の年になる。

介護報酬の改正、訪問介護の生活援助の提供時間区分については45分とする考え方がある。介護サービスの提供事業所の増、サービスの利用者の増、介護職員の待遇改善の要因等から、次期保険料の値上げは避けられない状況であるのではないか。

国保税について

質問 平成23年度税率改正後の安定化計画の決算見込は安定したと言

うが、私共の保険料の払込みは大変な負担であり、市民の負担軽減を図る案はないものか。国保税の不正受給によ

り、過大受給分をまた国保会計から返還するとすれば、被保険者の理解を得られるのか。

答弁 市の国保会計も加入者の高齢化により、医療費が増加し厳しい財政運営が続いていることから、今年度、安定計画を策定して、国保税の立て直しを図っている。

不安定な負担増減は、不安感を増幅する結果になる。市民の皆様にとっては安定感、安心感の方が理解されやすいのではないかと思う。

返還金については納得していたらと期待し

ているが、その財源については議会と深く議論する必要がある。

寄贈品の扱いについて

質問 市への寄贈品の扱いが、粗雑な点がありその管理、運用は適正なものか。

答弁 寄贈者の意を踏まえた適正な管理、運用に努めなければならぬ。

財務規則の規定で分類して財産台帳に登録しているが、ご指摘の寄贈品は、当初の掲示形態を維持できなかったため、早急に対処するよう指示した。(安藤 記)



この絵の前に障害物を置いていた
神代デイ・サービスセンターホール

一般質問



- 行財政改革について
- 高齢化社会への対策について
- 空き家対策について

熊谷 一夫 議員

行財政改革について

質問 平成22年度決算

で、一般会計・特別会計における収入未済額と不納欠損の額を合わせると、10億2,600万円とついに10億円を超えた。年々増加して行くこの現状を踏まえた上で、大事な自主財源である市税や国保税の収入未済額及び不納欠損額についての所感と今後の対策について伺う。

答弁 自主財源確保は至上命題であるとの認識に立ち、税の公平の観点から訪問や電話、夜間納税窓口等、きめ細やかな納税折衝、督促と並行し調査の結果、担税力がある場合には差し押さえを行っている。また、県

地方税滞納整理機構等との連携で、今後も粘り強い収納対策を継続して行く他、納税しやすい環境の整備として、口座振替納税制度の一層の普及等についても検討して行く。

尚、市税以外の私債権について、事務処理基準を定めその管理を適切に行う為、私債権管理条例の制定に向け、顧問弁護士の指導を頂きながら準備を進めている。

非常な難しいものがあるが、数字に一喜一憂する事なく、粛々と未納額圧縮の為、今後も努力して行くので理解を願う。

質問 第2次行政改革大綱では、滞納対策強化による収納率向上の数値目標が一般税10%、国保税9%となつている

が、この数値目標で収納率が上がるのか。また、一例を挙げれば、一般会計187億8千万円の内、自主財源比率がわずか23%の43億1,700万円、この内5億5千万円が市税と税外収入の未収金、更に3,300万円が不納欠損額で合わせて5億8,300万円である。この財源があれば市として相應の事業計画ができると思うが、どう考えているのか。

答弁 決してこの数値ではない。ただ、昨今の厳しい経済情勢の中にあつては、今後の景気動向が極めて不透明である事も考慮せざるを得ないと感じている。

困難事案が多数を占める滞納繰越額の収納は、

高齢化社会への対策について

質問 PPK(びんびん

ころり)対策として健康医療介護にならない、させない医療、すなわち高齢者が元気で健康に生き生きと安心して暮らせる為の今後の取り組みを伺う。

横手市では具体的な取り組みを行っているが、仙北市でも積極的に取り組むだろうか。

答弁 保健課及び包括支

援センターが中心になり、元気な高齢者には住み慣れた地域で益々元気に生き生きと暮らして頂く為の各教室を開催している。また、身体の疾病を早期に見つける検診とあわせ、生活機能の能力を評価する検査を65歳以上の方全員を対象に実施している。その生活機能評価で要介護状態に近いと判断された高齢者には各種教室を実施してい

る。今後も健康寿命を延ばし、要介護状況にならない為に、介護予防サポーターと共に様々な介護予防教室を開催し、病院通いではなく、教室通いをしようと呼び掛けをして行きたい。

空き家対策について

質問 全国的にも老朽危

険家屋等が増えており、所有者が指導・勧告に応じない場合は、家屋の解体を行う所有者に



元気に生きがいを持って暮らせる取り組みの充実を!

し、解体費用の一部を助成する制度や条例を設置して対応している自治体も多いと聞くが、仙北市ではその考えはないのか伺う。

答弁 解体費用等一部助

成及び空き家条例制定の件については、実態調査を踏まえた上で現状分析を行い、先進地の事例なども調査し、組み立てて行きたいと考えている。

(田口(寿) 記)

一般質問



○市民生活を災害からどのように守るか？
○所得10%アップ 総合産業研究所について

新 星 会 八 柳 良 太 郎 議 員

市民生活を災害からどのように守るか

質問 ここ数年、仙北市でこの豪雨の発生が頻繁であり、大変危険な気候変動になってきている。本市の現状についてどのように捉えているのか。

答弁 気象庁の調査・研究によると、1日に降る雨の量が100ミリ以上というような大雨の日数は、長期的にふえる傾向にあって、地球温暖化が影響している可能性があると考えられている。このような気象の変化を踏まえると、今後ますます大雨による災害の発生が懸念される。

質問 本市において、暴風、豪雨、豪雪、洪水、地震、落雷、地滑り、雪崩等の件数、被害額についてここ数年間の被害の状況について伺う。

答弁 平成18年から23年までの被害状況は、水害が6件発生している。これは、集中豪雨による住家の床上、床下浸水である。被害額は4億5,700万円に及んでいる。積雪、雪



目指せ6次産業化
総合産業研究所開発の「麵恋こまち」

崩被害については1件発生している。また、風害は3件発生した。これは強風による屋根のトタン剥離などである。小計被災額は4,650万円となった。震災も2件発生している。これは簡易水道のポンプ圧送不能等である。総合計被害額は、5億400万円程度となっている。

質問 各地で豪雨による、地滑り等が発生しているが、本市の対策を伺う。

答弁 県砂防課の管理局所管と協議をしながら、危険箇所への看板設置、または広報等で啓発活動を行っている。また、本市では、県関係等の管理以外について、本年4月1日から施行している仙北市応急仮設工事実施要綱により対策を

実施している。内容は、市内で発生したがけ崩れのうち、2次災害の危険性が予想されるがけ等に対し、応急仮設工事を行うことで、第三者に対する危険を防止を目的とするものである。急傾斜地等、危険箇所の管理は県砂防課等で管理されている。県と並びに本市でも同様に巡回し、安全確認をしている。

質問 最近、秋田県内陸南部を震源とする地震が頻発しているが、このことについてどう捉えているのか。

答弁 秋田県内陸南部を震源地とした地震は61回観測をされている。そのうち仙北市では42回である。7月中旬以降はやや静穏化傾向であるが、これからも注意深く推移を見守り、市民に対し災害に備える注意を喚起していく。

質問 本市の平成22年度の年間降雨量は史上最大となった。今後をどう予測しているのか？

答弁 このところ記録的な大雨になるケースがふえてきている。予測は難しいが、さまざまな災害に対処するために、地域防災計画の見直しを行った。

質問 内水被害の対策についてどの程度進んでいるのか。

答弁 過去のデータ等から内水被害常襲区域を設定して、国庫補助事業とも合わせながら対策を行っている。水路の改修や用水ポンプの設置などが、12地区のうち4カ所は発注済で、年度内に完了する予定である。

所得10%アップ 総合産業研究所について

質問 市長マニフェストの内所得10%アップの見込みについて伺う。

答弁 18年度ベースで172万円だった本市の一人あたり所得は、19年度には178万円まで上がったが、20年度に169万円に落ちている。ここまでは統計上の数値で調べられるが、それ以降はまだ公表されていない。同じ考え方で、市独自で推計したところによると、21年度はさらに3万円落ちて166万円となっている。190万円を目指すにはハードルはさらに高くなっている。

質問 仙北市の農林水産物の奨励品種について上位5番までの品目について販売実績、作付面積を伺う。

答弁 1番がホウレンソウ、販売額は5,893万円、作付面積は

2,254アール。2番目がアスパラガス。2,284万円。作付面積は864アールである。3番目が、シイタケで、販売額2,636万円、作付面積が2,738アール。最後はソラマメで、販売額1,971万円の689アールとなっている。

質問 総合産業研究所において、これまで様々な商品開発を行ってきたようであるが、現状を伺う。

答弁 総合産業研究所では農産物を主体として商品開発を進めている。最近では地域資源活用や安全性が注目されていることから、小麦、枝豆、ホウレンソウ、シイタケ、西明寺栗など、本市の特産品を生かした商品開発に取り組んでいる。市民の所得アップを図るためには、商品開発を行い、消費拡大を図り、生産拡大につなげていくことが重要であると考えている。そのために、本市の特産品を生かしたオリジナル商品の開発とあわせ、消費者ニーズをとらえた安定的な生産体制をつくる必要があるという考え方のもとに、進めている。

(高橋 記)

総務 常任委員会

本会議より付託された案件は、補正予算関係5件、その他1件、計6件である。

■仙北市一般会計 補正予算(第8号)

○歳入

問 教育使用料の教職員住宅使用料がマイナス15万1千円になった理由は。

答 現在、教職員住宅は5棟あり、入居しているのは武蔵野の1棟で、残り4棟は空き家になっている事から、歳入の見込みとして減額するものである。

問 そこには教職員でなければ入居できないという条件があるのか。当分の間空くというのであれば都市整備課と協議をし、一般市民にも市営住

宅として使用させて頂く事はできないものか。

答 教職員住宅の入居要件については、現行の条例では教職員と明記されていると考えている。現在、生保内にある住宅も老朽化し、しばらく使用していかないものもある。以前から解体や一般住宅にしたという話があり、教育委員会に確認し、今後の取り扱いについて検討して頂くようにしたい。

問 地方特例交付金が594万8千円の減額で交付決定されて来たという事であるが、今後の見通しについて伺う。

答 今回、減額になった主な原因は、子ども手当の減額に伴うものである。この動向を見る限り、今後、増額になる事は考え難い。更に、自動車取得税関係では議論の渦中にあり、この動向によつては減額になる事も考えられる。

○歳出

問 クニマス里帰りプロジェクト事業の関係で、クニマスの研究は進んで

いるのか。

答 プロジェクトチームを編成し、中坊教授を中心に秋田県、山梨県、富士河口湖町で色々な研究を行っている。

賛成討論

地域運営体活動推進費交付金500万円について、より良い運営体として発展する為の大切な条

件として、用途については事前に運営体の代表者等と協議し、内容をチェックして、お互いに理解し、認識し合う事を要望する。

■仙北市集中管理 特別会計補正予算 (第1号)

問 級別の職員のバランスや給与体系について、

改革の考えはないのか。

答 上級の職員が増えた理由として、新たな組織の追加や退職者の不補充に伴う若年層職員の減少が挙げられ、職員の年齢構成上、級別の職員構成において偏重状況が生じている。ある程度はやむを得ないが、より一層の適切な人事異動や、組織・機構の簡素化に配慮

しながら人事管理に努めたい。

○採決の結果

付託された6件の案件は、全会一致で原案を可とすべきものと決定した。

(田口(寿) 記)



本格的に動き出したクニマス里帰りプロジェクト
(田沢湖・西湖姉妹湖提携調印式)



すべての地区に地域運営体が立ち上がった
(角館まちづくり地域運営体設立総会)

教育民生 常任委員会

本会議より教育民生常任委員に付託された議案は、条例関係1件、補正予算関係4件、その他4件と、継続審査となつている請願1件である。

議案第127号 平成23年度仙北市 一般会計補正予算 について

●3款 民生費

問 障害者の就労支援は仙北市にとつても大きな課題であり、積極的に行わなければならないと考へる。今回の障害者の職場づくり推進事業では、障害者へのアンケートを実施するということであるが具体的にどのようなアンケートなのか。

答 アンケート調査は、就労に関する内容について予定している。主な項

目は、就業している場合はどのような仕事なのか、給与の額など。就業していない場合は、希望する仕事、就職に結び付かない理由等である。

現段階では事務局案であり、今後、障害者の職場づくり推進委員会で協議して頂き、アンケートをとりまとめ、就労支援に結び付けたいと考えている。

問 対象となる市内の障害者の方々は、どれくらいいるのか。更に障害者と同様に難病を抱え、苦しんでいる方は、どれくらいいるのか。

答 市内で障害手帳を持つている方は、精神障害、身体障害を合わせて2,001人、難病に位置づけられる方は198人である。

問 暮らしの安心サポート推進事業については、除雪や草刈り、見守り隊の各支援事業を県の100%補助で実施するとの事だが、具体的な事業内容は。

答 合併前の旧町村単位で申請する事業である。1地区の限度額が

300万円では仙北市の場合には2町1村だったので900万円の限度額である。

申請にあたり各地区の自治会や町内会の要望を聞いて予算計上したものである。除雪や草刈り支援等の機材は、各地域センターで管理し貸し出し要綱を作成し、各地域、団体等に貸し出す方向で進めている。

●4款 衛生費

問 環境保全センターの大規模改修工事は3年計画の最終年であるが、来年度以降もメンテナンスは必要と思われる。ごみ処理施設は専門的な部分も多く、運営にも多額の費用が掛かる。適正な運営であるか検討する必要はないか。

答 環境保全センターは、特別なプラントであるので専門性が非常に高い。今後の管理運営や計画的なメンテナンスが当然必要であり、そういう部分を専門的な技術や知識のあるところにチェックをしていただくシステムを立ち上げる必要がある。

と考えている。来年度中に、この作業を実施して、それ以降の管理運営やメンテナンスを計画的に実施できる有効な仕組みを作りたいと考えている。

●10款 教育費
問 福島っ子と秋田っ子の冬期交流事業は、どのような交流内容を予定しているのか。

鈴木内の紙風船上げでは鈴木内中学校と、角館の火振りかまくらでは角館小学校と、田沢湖高原まつりでは市内中学校のクロスカントリーのスキー部員と、また剣道部の子供達との交流も予定している。

受け入れ体制が整う学校や各団体等と連絡調整を図り進めたいと考えている。

●賛成討論

障害者の職場づくり推進事業で、アンケート結果を踏まえて、より一層の障害者や難病の方々への就労支援を含め政策の強化を要望して賛成する。

●継続審査

請願第1号家庭用LED照明購入費補助事業について

対象データの更なる比較検討が必要のため継続審査と決定。

◎採決の結果

全議案、全会一致で原案を可と決定した。

(佐藤(直) 記)



福島っ子との冬期交流事業の白岩城址燈火祭

産業建設 常任委員会

当委員会に付託された
案件は議案14件でありま
す。



乳頭温泉郷から事前調査の了解を得られない2号造成塔

■議案第125号
仙北市産業振興対
策委員会条例の一
部を改正する条例
制定について

意見 産業振興において
現状を正確に分析できる
ような人材を入れていた
だきたい。
●全会一致で可と決定

■議案第126号
平成23年度仙北市
集落排水事業特別
会計への繰入額の
変更について

●全会一致で可と決定

■議案第127号
平成23年度仙北市
一般会計補正予算
(第8号)

問 林業振興費の森林総
合研究所造林保育の今後
の取り組みは。

答 切り捨て間伐が対象
外と変更され、利用間伐
が対象であり、今年度予
定個所は搬出路が無いた
め減額補正である。来年
度から搬出路、林道等の
開設に取りかかり、その
後、利用間伐を可能にし
ていきたい。

●全会一致で可と決定

■議案第129号
平成23年度仙北市
下水道事業特別会
計補正予算(第1
号)

■議案第130号
平成23年度仙北市

■議案第131号
平成23年度仙北市
浄化槽事業特別会
計(第1号)

●全会一致で可と決定

■議案第137号
平成23年度仙北市
簡易水道事業特別
会計補正予算(第
1号)

●全会一致で可と決定

◎議案第139号
平成23年度仙北市
温泉事業会計補正
予算(第1号)

問 乳頭温泉郷から事前
調査の了解を得られない
ようだが今後の流れはど
うなるのか。

答 1年以上かけて湯量
の調査を実施し、掘削
前・後の段階での影響調
査が必要であり、事前調
査の了解が得られていな
い。

事前調査に必要となる
経費を24年度当初予算で
お願いしたいと考えてい
る。

●全会一致で可と決定

■議案第140号
平成23年度仙北市
水道事業会計補正
予算(第3号)

●全会一致で可と決定

■議案第144号
公の施設の指定管
理者の指定につい
て(田沢湖観光情
報センター)

社団法人 田沢湖観光協
会

■議案第145号
公の施設の指定管
理者の指定につい
て(角館駅前広場
観光振興施設)

一般社団法人 角館町観
光協会

■議案第146号
公の施設の指定管
理者の指定につい
て(田沢湖キャン
プ場)

有限会社 田沢湖自然体
験センター

■議案第147号
公の施設の指定管
理者の指定につい

て(自然ふれあい
温泉館)

株式会社 アロマ田沢湖

●全会一致で可と決定

■議案第148号
公の施設の指定管
理者の指定につい
て(角館中心市街
地活性化支援セン
ター)

仙北市商工会

意見 公の施設の指定管
理者の指定について、全
体的であるが1社、1団
体の応募しかない競争
原理が働かず、仙北市の
活性化に寄与できない恐
れがある。募集の方法、
選考方法など検討し、活
性化に繋がるよう努力し
ていただきたい。

●全会一致で可と決定

■請願第3号
米の先物取引試験
上場の中止を求め
る請願

●TPP問題などの農業
を取り巻く情勢を見極め
るための時間等が必要な
ため、継続審査と決定。

(荒木田 記)

税金の不正処理・所得税還付等問題

所得税還付等調査委員会の調査結果によると、旧角館町（所得税の不正な還付は仙北市になってからも数件あり）で税金の収納率を上げるため、不正な処理が行われていました。

さらには、調査の途中で個人住民税の不正な減額や申告支援システムの事前データの誤りなどが発見され、追加調査項目として軽自動車税の調停乖離、固定資産税の調停乖離などが加えられました。

旧角館町では、町民税の収納率を上げるため、個人住民税として徴収した中から、本来秋田県に払い込むべき県民税の一部を払い込まず、町民税の収入に計上していました。また、国民健康保険税でも、国からの調整交付金を満額受給できる、収納率93%に上げるため、国民健康保険税を滞納している世帯の所得税を不正に還付し、滞納している国民健康保険税に充当して、分子である収入額を増やす一方、滞納となつていて世帯の国民健康保険税を根拠なく減額し、分母である全体の課税額を少なくして、調整交付金を満額受給できるように操作していました。

（門脇 記）

所得税還付等問題について

この度の所得税還付等問題など相次ぐ不祥事により、仙北市は、かつてない規模での職員に対する懲戒処分を行いました。一連の問題により、市役所に対する市民の信頼は失墜したと言わざるをえません。

市議会としても、一連の不祥事は、遺憾千万であり、憤りさえも感じるところであります。度重なる不祥事を重大に受け止めて、市議会では、これまでに全員協議会、議会運営委員会、会派代表者会議を幾度となく開催し、速やかな原因の究明と市民への説明、再発防止のため論議を重ねてきたところであります。

市民の皆様には、かかる事態を看過できなかったことに対して、心よりお詫びを申し上げます。

いかに執行権を有しない議会とはいえ、チェック機能の検証をしなければなりません。今後、市議会では、市政全般にわたる不適正な事務の防止に向け、決算審査機能の強化をはじめ、より開かれた議会を目指し、議会自

らも改革を断行する決意であります。

市長に対しては、次の事項を強く求めてまいります。

- 1、外部監査システムの導入
- 2、職員の業務遂行におけるコンプライアンスの徹底強化
- 3、幹部職員の綱紀粛正の一層の強化

以上のとおり、不適正な事務の根絶を求めると共に、職員を管理監督する最高責任者である市長には、市民の信頼回復のため全身全霊を傾注し、弛まぬ努力を強く要望するものであります。

仙北市議会は、今後の対応策を毅然と質し、必要な提言を行い、二度と市民の信頼を裏切ることのないよう監視機能を強化してまいります。

平成24年1月

仙北市議会

市立角館総合病院建設に関する調査特別委員会設置

仙北市議会では、平成26

年秋を開業目標とされている市立角館総合病院の移転建設にあたり、この事業に特化した議論が必要として、同委員会を設置した。

委員は次の10名。

◎小田嶋 忠

○小林幸悦、高橋 豪、熊

谷一夫、阿部則比古、佐

藤直樹、黒沢龍己、荒木

田俊一、伊藤邦彦、高久

昭二

委員外議員

副議長 青柳宗五郎

病院経営を取り巻く環境

本市の病院経営は累積赤字の増加や人口減少、医師不足等が重くのしかかり厳しい情勢下にある。

一方、市内に二つの自治体病院を抱え救急対応を始め地域医療の確保が求められるという極めて困難な局面を呈している。

議論の視点

仙北組合病院建設も考慮した場合、二つの市立病院と診療所との関わりについて、将来を見据えた病院経営のあり方を徹底議論する

必要がある。

第1回特別委員会
平成23年12月16日開催

建設予定候補地とされる南校を除く3カ所の現地（旧角館東小学校、岩瀬下夕野地区、落合地区）を視察。

その後の質疑応答で、「今年度末に用地が確定すれば、目標とする開院に間に合うのか」との間に、「選定が3月を超えると間に合わない」と考えている。目標の開院を目指すには最低限、年度末までには用地決定が必要であるとの答弁があった。

今後、精力的に委員会を開催し、2月末まで「建設用地確定を目標に議論すること」さらに、必要に応じて「医師との意見交換を行うこと」を決定した。

その後の協議において、医療局のみならず、市長や病院、各診療所の先生方とも意見交換を行い、タイムリーに委員会としての意見を提起しながら進めることを確認している。

（小林 記）

市議会の インターネット中継開始

12月定例会から実証実験を開始

仙北市議会では、より多くの皆さんに議会をご覧頂くために、インターネットによる議会中継の取り組みを始めました。
24年2月定例会は一般質問を中継する予定です。

仙北市ホームページ
トップページ

インターネット議会中継
(生中継・録画中継)

傍聴席

平成23年第7回仙北市議会定例会
インターネット実証実験の動画を見て



伊藤 博英(角館町)

私が視聴したのはライブでは無く、仙北市のホームページからのリンク先にアップされていた録画です。一括アップロードでは無く17編に分割されていて、2日間で視聴しました。

最初の6編は分割のタイミングが掴めなかったのか、休憩での区切り等が雑で「コマ切れ」感があり、議会の雰囲気を読み取りにくいものでした。7編あたりからある程度の「節目毎の動画」となり、ストレスを感じる機会が減少し「傍聴している」気分が生じます。逆に、画質の荒さが気になるという弊害も感じました。

動画公開についての感想なので、議会内容については控える事として記述したいと思います。

まず、生中継を見られなかった市民にとっては、非常に有効な方法であると思う。

しかし、市のホームページから動画サイトへ遷移するには不親切なリンクの張り方です。「トピック欄」には常に新情報が掲示され、旧トピックとして表示外となり一目では分からないリンクとなっています。

今回は「実証実験」だったので「トピック扱い」だったでしょうが、本格的に配信するのであれば別途「市議会動画配信」の項目を設けるのも

一つの手法ではないでしょうか？市民にとつての関心事が審議されている場合であれば、サブタイトルで「〇〇の審議」等の説明を付け足す表示方法を一考される事を期待したいものです。

また「きたうら花ネット」がありながら、ユーストリームのサイトにアップしたのも疑問の一つです。「きたうら花ネット」のサーバーにアップしてリンク誘導をすれば「ノーカット配信」が可能だったのではないのでしょうか。勿論「休憩時間」等の審議に無関係な部分は編集してアップしてもらえれば「臨場感」はキープ出来ると思います。

いまや「国会中継」や「野球番組」でも複数カメラを駆使して「劇空間」化しての放映が一般的です。議案審議や討論の発言者のみを映すのではなく、発言を聞いている議員や担当市職員の表情アップ等を折々に映せば、臨場感が高まると思います。

他には録音についてですが、発言者のみのマイク収録では無いので「咳の音」や「雑音」が同音量で聞こえ、かなり耳障りな感があります。単なる「記録の配信」では無く、

あたかも傍聴席にいたと思わせる臨場感ある「市議会配信」となる事を期待して、私の感想とさせていただきます。

佐々木章 議員 逝去



佐々木章議員（仙北市角館町岩瀬町 68歳）は、去る平成23年11月14日、脳出血のため、秋田市の中通総合病院にて逝去されました。

故人は、昭和55年3月に角館町議会に初当選し、以来、合併後の仙北市議会も含め、通算9期、31年8カ月にわたる議員として活躍されました。その間、平成4年4月から平成8年3月まで、角館町議会議長、平成18年5月から平成22年4月まで仙北市議会副議長、またそれ以外にも、常任委員会における正副委員長や、大曲仙北広域市町村圏組合議会議長等も歴任し、長年にわたり町政・市政の発展にご尽力されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



人事案件

○教育委員に坂本氏
任期満了に伴う後任の教育委員の任命案を全会一致で同意した。
市教育委員5名のうち、前教育委員の三浦陽一氏が平成23年12月20日に任期満了により退任、後任に英会話教室主宰の坂本佐穂氏（46歳）を任命することを全会一致で同意した。

○農業委員
平成23年12月19日に任期満了となる仙北市農業委員の選任に当たり、議会推薦の依頼があり、次の方々に全会一致で推薦した。

藤原 由悦氏（68歳） 田沢湖生保内
辻 均氏（63歳） 角館町八割
野中 秀人氏（63歳） 西木町松木内
黒沢 龍己氏（60歳） 角館町山谷川崎

後記

議会最終日の出来ごと
◇税の不正処理問題で、当時の不正行為を実行したとして、若い主事や主任に重い処分が下された。

この人達が自らの考えで実行したとは誰も思っていない。
議会の考え方も示されたが、問題の背景を全て明らかにしなければ、真の再発防止にはつながらないのではないか。
◇次回の選挙から議員定数の削減、この4月から報酬を引き下げる案が可決された。

長い時間をかけて議論して来たが、「身を切る」議会改革実現は直前まで無理かと思われたが、急転直下、実現できたのは至難の業だったと言える。

(安藤 記)